

平成 30 年度・令和元年度 「たくましい“かごしまっ子”」育成推進校

## 出水市立高尾野小学校 研究公開

(令和 2 年 1 月 31 日金曜日)

### 1 研究主題

楽しさや喜びを味わい、主体的に運動する子供の育成  
～「つながり」を意識した実践を通して～

### 2 研究の仮説

仮説 1 体育の授業において、指導者が意識すべき事項を明確にした一単位時間の指導過程を構築し、授業の工夫・改善を図るならば、子供は楽しさや喜びを味わい主体的に運動に取り組むことができるのではないかと。

仮説 2 保健の授業において、指導者が意識すべき事項を明確にした一単位時間の指導過程を構築し、授業の工夫・改善を図るならば、子供は健康の大切さを感じ、望ましい生活習慣の形成につながるのではないかと。

仮説 3 子供の生活の中にある教科以外の運動に親しむ機会を充実させることによって、子供は主体的に運動に取り組み、楽しく明るい生活を営む態度を養うことができるのではないかと。

### 3 研究の実際

#### (1) 体育授業の工夫・改善

- ア 指導者が意識すべき事項の精選
- イ 一単位時間の指導過程の構築
- ウ つながりを意識した授業の工夫・改善

#### (2) 保健授業の工夫・改善

- ア 指導者が意識すべき事項の精選
- イ 一単位時間の指導過程の構築
- ウ つながりを意識した授業の工夫・改善

#### (3) 教科外体育における取組の充実

- ア 運動環境とのつながり
- イ 家庭とのつながり
- ウ 地域とのつながり

### 4 研究公開の様子



#### 4 年 2 組 保健「育ちゆく体とわたし」

授業者 桑代貴史 教諭, 赤瀬川さち子 養護教諭

#### 6 年 2 組 体育「タグラグビー」

授業者 福吉真弥 教諭



### 分科会（保健）

司会者 出水市立下水流小学校 田原英樹 教頭  
 記録者 出水市立高尾野小学校 上京由奈 教諭  
 指導助言者 北薩教育事務所 岩下邦浩 指導主事



### 分科会（体育）

司会者 出水市立野田小学校 上葉智明 教頭  
 記録者 出水市立高尾野小学校 松元華子 教諭  
 指導助言者 出水市教育委員会 谷口 功 指導主事

## 5 研究の成果と課題 (○=成果 ▲=課題)

### (1) 仮説1について

- 一単位時間の指導過程に体力の実態につながる手立てや学習課題につながる手立てを入れて実践したことで、楽しさや喜びを味わい、主体的に運動する子供の育成につながる授業づくりができるようになってきている。
- ▲ ボール運動領域における指導と評価の計画を作成したが、計画をもとに実践し、改善を加えることについては実践が不十分である。評価規準が適当であるかを実践しながら検討し、学年間のつながりを意識した系統性のある評価基準を作成する必要がある。

### (2) 仮説2について

- 「健康のために運動を行うことは大切」と回答している割合が高くなった。保健の授業を中心に、健康の大切さを伝えたり運動と健康な身体との関わりを学ばせたりした成果であると考えられる。
- 自己の生活や体育とのつながりをどう生み出すかを考えながら保健の指導過程を作成し、実践することができた。
- ▲ 保健の授業において体育との関連を図る研究は進められたが、体育の授業において保健との関連を図る研究は不十分である。運動領域と保健領域、双方向からつながりを生み出すための研究が必要である。

### (3) 仮説3について

- 「家の人から運動を勧められることがある」と回答している割合が高くなった。学校保健委員会を中心に、親子で取り組める実践を継続した成果である。
- 「9マスビンゴ」や「親子チャレンジカード」では、運動や親子で触れ合う機会を得ることに対する肯定的な保護者の感想が多かった。
- 地域人材を活用してより専門性ある指導をしていただいたことで、運動ができる喜びを実感させることができた。
- 学校における運動環境を整備したことで、進んで外に出て身体を動かそうとする子供が増えた。
- ▲ 生活習慣については、早寝・早起きやテレビやゲームの時間等、まだまだ課題がある。楽しく明るい生活を営むために、保護者啓発を含めた実践を更に進める必要がある。